学生会同士の交流も増え
学年も気にしないほど仲良し

横浜キャンパス学科学生会は、大学祭にも積極的に関わっています。対面ステージを用意した2022年の横浜祭からは、各学科の学生会が連携し、受験生向けに学科の魅力をアピールするトークイベントを開催。また、同年12月に開催されたYCチャリティーフェスでは、横浜キャンパスの保全林の竹を有効利用した企画を話し合ったそうです。「例えばトイレを竹垣で囲って綺麗に見せたり、流しソーメンを行ったら盛り上がるのでは、などいろいろな企画の話をしました」(荒木君)。

ちなみに学科学生会はコロナ禍の影響が大きく、会員が減少。2022年から徐々に活動再開しましたが、新たに再出発する状況に近かったとか。ただ、今では大学祭などを通じて学生会同士の交流が盛んになり、活動も活性化。所属する会員同士のつながりも強くなっているそうです。環境学部の学科学生会に所属する竹内さんと山口さんは、「会員同士で学年や、上下関係をあまり気にしたことがないほど、仲がいい」と、笑って話します。情報システム学科学生会、会長の折橋君は「これからはもっと下級生との交流を深めて、今後の下級生の活動も活性化するようサポートしていきたい」と、期待を込めていました。

学科学生会は、会長を中心に学科の垣根を超えて仲がよく、他の学科学生会の活動を参考にしたり、さまざまな意見交換を行っています。

ゼミ選びにもメリットがあり社会人としての教養も得られる

学科学生会の活動は自身の学生生活にも、いい影響があるようです。小山田君は次のように語ります。「僕は1年から入会しましたが、学科学生会はThat'sゼミをはじめ、研究室の先生との関わりが増えます。早くからさまざまな研究室を知ることができ、より視野の広い学生生活を送ることができると感じました。ゼミ選びにもいい参考になると思います」。これには竹内さんも、「私もそう思います。また先生との関わりも増えるので、学生会でやってみたい企画についても、提案しやすくなります。ある程度、活動内容が決まっている団体とは違って、自分達でいろいろな企画を考えられる自由度の高さも、学科学生会ならではの魅力です」と話します。

また学生のサポート活動、イベントでの実務も非常にいい経験となっているそうです。「さまざまな団体や担当者との、報・連・相の大切さを学んだ」(折橋君)、「イベントでの人員リソースや役割分担の割り方を、社会人になる前に学べたことが大きかった」(山口さん)という声も。

こうした学科学生会での活動、経験は社会に出てからも大いに役立つはず。今後のさらなる飛躍が期待されます。

10月の都市大フェスタに参加し、子ども向けのイベントを主催。

情報システム学科

世田谷祭に参加し、来場者に向けた学科説明会を行いました。また子どもから大人まで楽しめる、オリジナルのパズルゲームを用意しました。

デザイン・データ科学科

留学生交流会で、ドイツ・カッセル大学と学生らとチームラボを見学しました。